

区長と区民のダイアログカフェ

令和6年3月13日

区長と区民のダイアログカフェ

令和6年3月13日

【広報課長】

皆さん、こんばんは。お仕事のため、少し遅れて参加される方もいらっしゃいますが、予定時間の午後7時となりましたので、ダイアログカフェを始めたいと思います。

今日はお集まりいただきましてありがとうございます。

初めに、区長から挨拶を申し上げます。

【区長】

皆さん、こんばんは。今日をご参加いただきましてありがとうございます。

区民と区長が語るダイアログカフェということで、今日は、この後、ファシリテーターのノブさんから説明をしていただきますが、基本的にみんなで何かを前向きにつくり上げようという会ですので、いろいろなご提案をいただきながら、いい方向に議論が進めばいいなというふうに思います。時間は限られていますけれども、前向きな楽しい議論ができればいいなと思いますので、どうぞご協力をお願いいたします。

【広報課長】

それでは、始める前に、何点か私から確認事項を申し上げます。

今回、会議録用に録音させていただきますので、ご了承ください。あとは、記録用として写真も撮らせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、早速対話に入っていきますが、本日のファシリテーター、もう既にお話しされておりますが、ノブさんをご紹介させていただきます。

ノブさんは、根津で長年にわたり地域に住む方が気楽に対話する場をコンセプトにしたカフェを経営されております。今回このダイアログカフェ、平成25年度からずっとノブさんをお願いしております。

これから進行させていただきますので、ノブさん、よろしくお願いします。

最後に、本日の会場ですが、募集時の会場が、都合により使用できなくなり、急遽露地さんをお願いすることになりました。前回の会議録をご覧になって分かっていらっしゃる方もいるかもしれませんが、前回もここでやらせていただいたんですね。ここでまたお願いしております。よろしくお願いします。

今回は、ほかはお客様おりませんので、忌憚ない活発なご意見をよろしくお願いしたいと

思います。

前置きが長くなってすみません。ここからは、ノブさんをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

【ファシリテーター】

今、紹介いただきましたノブと申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

この運営上のお願いというのを基に、少しちょっと今日の注意事項、今の課長ののに上乗せで申し訳ないんですけども、お話をさせていただきますが、本日のまず目指すゴール、この一番下書いてありますけれども、今日は、主体は皆さん、区がやるとかではなく、自分たちで区と一緒に何かできるんじゃないかという発想で、いろんなアイデアをここに出していただくという会で、決して何かみんな一つをまとめるとかではなく、いろんな、こんなこともある、あんなこともあるということを考えながら、アイデアを出していただきたいなと思っております。

そういう中で、この後ですけども、軽く皆さんに自己紹介をいただきたいと思います。皆さんが出していただいたプランシートというのがあると思いますけれども、このプランシートの上のほうに書かれています、1分程度で発表いただきますと書かれていますので、皆さんこの順番で、1分程度でちょっと、今日呼ばれたお名前と、あとこのプランに書かれた内容をご紹介をいただきたいというふうに考えております。

その後なんです、これだけ初対面の方が集まっていますと、全員の希望に沿ったものを何か一つ話をする、これはまさに、ちょっと正直厳しい部分があるので、できるだけ皆さんの多くの方に何か共通したキーワードを基に、みんなでテーマを考えて、そのテーマで掘り下げたいと思うんですね。なので、自分の意見が通らないという方、中にはいらっしゃるかもしれないんですけども、こういう会ですので、趣旨をご理解いただければというふうに思います。

その対話が終わった後、最後に区長にお話を、講評いただいて、それで終わりの会になります。

終わりの予定時刻は8時半ぐらいを予定しております。もしかすると、少し時間が前後するかもしれないんですけども、その辺はご容赦いただければと思います。

今の流れのところで、何かご不安な点とかありますか。今のところ大丈夫ですか、全体の流れとか。

この後なんです、これで録音をされておりますが、そういうこともあって、申し訳ないんですけども、発言されたいときには、手を挙げていただくなり、私のほうにアピールしてい

ただいて、私が呼びかけさせていただきます。そうしたら、お話をいただければと思うんですね。そのときに、長い時間かかってしまうと、みんなが話せなくなるので、目安として1人1分ぐらいで何とかまとめてお話しただいて、順番にみんなが会話できるようにというふうに考えておりますので、ちょっと長いとき、私のほうで止めさせていただきますが、よろしくお願いたします。

あと、誰かの発言に対して、ちょっと批判とか否定とかというのはできるだけせずに、アイデアを出すことが目的なので、それはいいね、それもいいね、いいね、いいねという感じで、どんどん話を膨らませていきたいと思います。よろしくお願いたします。大丈夫ですか。

じゃ、早速なんですけど、実際に自己紹介タイムに入っていきたいなというふうに思っております。

皆さんは、お手元の資料、2枚めくるとプランシートというのが出てきますか。では、ご自身のはわかります、大丈夫ですね。この順番が何順なのかちょっと私は存じ上げないので、いつもこの順で、1分ぐらいでお話をということをお願いしたいなと思います。

最初、この大人の児童館と書かれた方はどなたでしょうか。

【参加者】

私です。

【ファシリテーター】

〇〇さん。では、〇〇さんから、大人の児童館、こちらの説明をいただいてもいいでしょうか。

【参加者】

実現可能なものというふうなお題だったんですけども、私が実際書き始めて、こんなのいいなと思ったのは、ほとんどもう空想の産物みたいになってしまっていて、できれば365日24時間開いている場所で、常時5、6人の係、職員さんが滞在していて、障害や認知症とか、差別にあっている人にどう対応したらいいのかとか、あとホームレスや貧困、暴力とかについても詳しくて対応に慣れた人が、対処できるような人が常時滞在しているような場所があったらいいなって思って書きました。

【ファシリテーター】

それを名づけたのが、大人の児童館という名目なんですか。

【参加者】

そうです、はい。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。イメージ図があって、分かりやすいなと思いました。ありがとうございます。

では、続いてのプランシート、住居確保による若年人口増加を目指す施策ということなんですが、どなたですか。

【参加者】

はい。

【ファシリテーター】

じゃ、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

文京区には、数多く大学と大学院みたいな、そういう教育施設があるなと思っていて、学生さんいっぱい毎年来るなと思いつつ、区民にはなっていないかなと思ったんです。なので、区民になってくれるのを条件に、ちょっと家賃が高いから家賃補助みたいなのをしたら、居着いてくれるかなと思って。そして、若い人がいっぱい来ると、何かコミュニティーとして明るくなるかなと思って、今回提案させていただきました。よろしくお願いします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

ちなみになんですけれども、皆さんの書いたやつ、キーワードをちょっとここに挙げているんですね。もし私じゃなく、キーワードそれじゃないんだよという方がいらっしゃったら、ちょっと皆さん自身書いていただいて、ここに挙げていただいて大丈夫です。

では、続きまして、大人の課外活動のプランシート、〇〇さん。じゃ、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

身の回りに、職場で休職中になってしまった人とか、あとは学校を卒業した後、社会に出ずにひきこもりになってしまった人とか、目に見えない状態でいたりするので、そういうことを未然に防止できるように、例えば、大人の課外活動みたいな居場所があると、例えば、仕事をしていても、もう一つの活動があれば頑張って仕事に行けたりとか、ひきこもりせずに元気に生き生きと過ごせたりとかするのかなというのがあって、何か23区、東京都でナンバー1になれるような、文京区に住みたいとか、文京区で勤務をしたいとか、何かそういう

ものをみんなでつくっていただけたいなと思って提案させていただきました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。大人の保健室とか、大人の課外活動ね。

では、続きまして、若い世代を対象とした健康になれるまちづくり、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

今日はよろしくお願いします。私は、プラン名称、若い世代を対象とした健康になれるまちづくりということで、私自身が、一応若い世代に入るのかなと思って、若い世代をキーポイントとして挙げさせていただいて、ちょっと3つ、具体的なプランとして、妊娠前からの健康支援というのが1つ、ちょっと女性の痩せというのが最近話題になっているなと思っていたので、妊娠する前から、高校生とか大学生とか、文京区大学生も多いので、そういったところからできるといいのかなというのが1つと、あと自分も働いているので、働き世代の健康支援というところで、例えば、区が健康機器を貸し出したりとか、専門職種が健康づくりについての相談とか出張講座とか実施できたらいいのかなというのが1つと、あと3つ目が、何か月間とか、国がいろいろ施策をしていると思うので、そういった国の施策と併せて、地域を巻き込んだイベント、区民さんが実際に参加できたりとか、いろいろ地域を知るといイベントになるといいかなと思って提案しました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

続いて、温故知新と混ざり合いは、いらっしゃらない方ですかね。

何となく見ていただいて、キーワード、温故知新とごちゃ混ぜとコミュニティーとか書かれているので、ちょっと挙げておきます。

では、続きまして、これ、2ページにわたっています。なので、次は、考えたくなる景色プロジェクト、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

はじめまして、今日はよろしくお願いします。

私はコピーライターという書く仕事をしているんですけども、書くとか学ぶということが好きで、文京区にはそういう人が多いんじゃないかなと思います。閑静な住宅街が多いというのも、その窓辺には考えている人がいるんじゃないかな。文京区の財産は、考えたくな

る景色だというふうに考えてみました。この文章に結構エネルギーを込めているので、ちょっと一回読みます。

考える、それは人と土地との共同作業だ。窓の外の緑、静か過ぎない静けさ、歴史のにおい、頭に言葉が浮かぶ、同じく考える人たちの気配を感じて思考は進む、時には思いもよらぬ方向へ。道に出よう。坂を歩き庭園をゆけば、面白い刺激をもらえるかもしれない。漱石は向丘を、鷗外は千駄木を選んだ。文の京。この町は連れていく。考え始めたときからは想像できないほど、遠くへ。ということなので、皆さんからこういう考えたくなる景色みたいな写真を募集して、そこで実際に考えた文章というのも募集して、1冊の本をつくれたら、みんなの書くモチベーションも上がるし、知的なガイドブックみたいなものになるかなと思いました。

今日はよろしく願いいたします。

【ファシリテーター】

見本まで持ってきて、すごいですね。ありがとうございます。

続いて、生涯遊び学べるまち、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

私は、文京区って、さっき話していたように人もいるし、大学とか各施設であるとか、場所もあるし、魅力的なまちだと思うんですけども、それをつなぐものが少ないような気がしていて、ですから、移動も促進するような自転車置き場とかもあれば、公共交通機関とかだけだと移動しにくいような地域でも、自転車とかで行けたら、特に若い人だったら利用がすぐできますし、というところがあるといいのかなというふうに考えていて、それから、例えば喫煙所とかがあると、例えば、私の場合だと、ある道は避けるようにして通るとかという感じで、移動に若干の障害が生じていたりしますし、健康にもよくないことではあるので、そういったことをできるだけ密閉型とか廃止とかという方向に持っていきたいみたいなことを考えております。そんな感じです。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

じゃ、最後になるのかな、井戸端コーヒースタンドということで、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

どうぞよろしく申し上げます。名前が〇〇なので、〇〇と呼んでください。

私が考えたのは、私は小学校と中学校の子ども3人いるんですけども、学校って今、結構クローズになってしまっているんですけども、きっといろんな人が関わったら、学校だけじゃなくて、まち全体が活力ある魅力的なまちになるんじゃないかなと思って、ちょっと中まではいけないかもしれないけれども、学校の玄関前にコーヒースタンドができて、そこでみんなが集まってわいわいできるというようなことができたらいいなかと思って、プランを提案しました。よろしくお願いします。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

実際ここまでオンタイムで来ることがなかなか今までなくて、初めてかもしれない。みんな1分とって、1分で終わらないんで、ちょっと驚いております。ありがとうございます。

この内容につきましては、今日発言していただいたことが議事録になって、区の内部で共有されますので、なかなかこの後、どれか1つを掘り下げるといっははないんですけども、何か活かされますので、まずはご安心くださいということで。

この後なんですけれども、一応皆さんから上がってきたものをキーワードとして、ちょっとここに挙げてみました。ここら辺から、せっかく集まったメンバーなので、1つテーマを決めて、よりちょっとアイデアを広げていきたいなというふうに思っています。席が遠くの方、見づらくて申し訳ありませんけれども、ちょっとご了承ください。

ちょっと、自分推しになるかもしれませんが、ちょっとこのキーワードいいななんというのがあれば、これいいんじゃないとか、何かおっしゃっていただいてもいいでしょうか。

【参加者】

私、7か月前に子どもが生まれたばかりなんですけれども、子育て世代とそうでない世代という、交わりが今まで本当になかったなと思うので、〇〇さんが言っていた学校を活用するみたいなのはいいなって思いました。

【ファシリテーター】

今の〇〇さんのお話だと、何か学校もそうですし、世代を超えてみたいな。

【参加者】

そうですね、ごちゃ混ぜとか。

【ファシリテーター】

ごちゃ混ぜとか、こういうところら辺とか、居場所とか、学校というのは居場所とか

ですかね。

どうですか、せっかくの機会なので、これ。自分のを推してもいいですよ。

じゃ、〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

何かごちゃ混ぜっていうところもそうなんですけれども、私、去年から町会に関わったりとかさせてもらっているんですけども、やっぱり町会って結構年齢が、私なんかよりも上の方が多かったりとかするんですけども、今回これ考えるに当たって、若い世代ってあんまり考えていなかったんですけども、やっぱり若い世代が入ることで、ごちゃ混ぜ感がすごく増すんじゃないかなっていうので、そこが盛り上がる起点になるのかなって思いました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。学校の話、若い世代、居場所、ごちゃ混ぜ、何かこの辺、年齢を超えてみたいなニュアンスが皆さんの中で出てきますけれども。ちなみに、今日は、活力と魅力あふれるまちを創造するためにはという大きなタイトルなんです。これは、区長が施政方針でおっしゃっていたところなんです。それを受けて、具体的にというところで考えています。

〇〇さんとかどうですか、何か。

【参加者】

そうですね。僕もやっぱりごちゃ混ぜっていうところは、自分の中でもここまで明文化できていなかったなと思っていて。私は去年の年末から区民になって、町内会にも入ってやっついて、何か本当に絶対出会わない人たちと出会うことができ、偶然の出会いみたいなのが演出できたらいいなと思いました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

〇〇さんは、何か気になるキーワードありますか。

【参加者】

私は、やっぱりごちゃ混ぜ。

【ファシリテーター】

ごちゃ混ぜの方が来られた。ごちゃ混ぜが、今日のキーワードとして、本人がプレゼンする前に決まりそう。

【参加者】

めちゃめちゃうれしいです。

【参加者】

ごちゃ混ぜって書いてあるけれども、ごちゃ混ぜって言われたときに、何かすごく……

【ファシリテーター】

ああ、いいなって。

【参加者】

何かいいなって。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

〇〇さんはいかがですか。何か気になるキーワードとか、推しの言葉とかありますか。

【参加者】

皆さんがおっしゃったみたいにごちゃ混ぜ。

【参加者】

大人の児童館も、ごちゃ混ぜ感満載ですよ。

【参加者】

世代で区切ったりしないで、赤ちゃんが全然血縁のないおじいちゃん、おばあちゃんと関わったり、会社に行っている人が、会社に行く前や会社から帰ってくる途中で寄って、そこにいる問題が、自分、うまく環境が違う人と関わられるような、ご近所の顔見知りができるよというののできたらいいなって思います、ごちゃ混ぜがいいな。

【ファシリテーター】

ごちゃ混ぜ推し、いいですね。でも、〇〇さんがおっしゃっていたことも含めていますもんね、きっとね。

〇〇さんはどうですか。

【参加者】

何かこの流れで……

【ファシリテーター】

流れ考えなくて。

【参加者】

でも、私もごちゃ混ぜはいいなと思って、多様性とかもちょっと近いのかなとちょっと思っていて、実は今日、高齢者が多いのかなってすごく。結構高齢者が参加するってすごく強

くあって、だから、何かこういった若い、それこそ若い世代とかいろんな世代が、だから、今のこの場もごちゃ混ぜなのかなとかって思って、ちょっと今のに合っているなと思ったので。

【ファシリテーター】

あと、〇〇さんはどうですか。

【参加者】

そうですね。私自身考えたときに、あんまり大人みたいな視点がなかったので、それがまさに世代間の話合いというか、交流がないことの証なのかなって考えながら聞いていました。

【ファシリテーター】

どうですか、ご自身の評価は。

【参加者】

そうですね。だって、健康増進とかというのは、特にお年寄りとか、若い人と話すことで認知症の防止になるし、つながってくると感じていますね。

【ファシリテーター】

つながるということですね。

このごちゃ混ぜとコミュニティーを挙げていただいたご本人、遅れていましたが今到着されたようです。ちょっと、お名前を教えてください。

【参加者】

遅れてすみません。じゃ、〇〇で。

【ファシリテーター】

では一度、〇〇さんの資料に戻りましょうか。〇〇さんの資料、分かりますか。何ページ目かな。

【参加者】

温故知新と混ぜり合いみたいな形で、ちょうど真ん中あたりに入っていたと思います。

【ファシリテーター】

1分ぐらいでの説明お願いしております。

【参加者】

皆さんがどうされたか分からないので。

【ファシリテーター】

大丈夫ですよ。空気読まなくていいですよ。

【参加者】

どうしていいのかわからないんですけども、〇〇と申します。本日はよろしくお願ひします。

私、文京区民になってまだ数か月です。ただ、文京区民になりたいなと思って引っ越してきました。やっぱりまち並みがすごいよかったですよね。隣の台東区から、谷中銀座であるとか、あと商店で、スーパーでも、お買物するとおばちゃんが、今日元気とか、声をかけてくれて普通に会話が始まっていく。ちょっと道歩いていても、餅つき大会をやっていたりとか、雪降った日には、町内会の人学校前に、熱湯をじょうろに入れて子どもたちが転ばないようにみたいな形でやっていたりとか、コミュニティーのあったかさがすごいなと。

ただ一方で、じゃあ、私たちみたいに引っ越してきたばかりの人が、どうやってコミュニティーに入るんだろうというところが、1個きっかけが欲しいなというところで、どういうきっかけづくりがあるんだろうというのを考えたのが、ここになります。

本当に皆さんがおっしゃっていることをいろいろ考えたけれどもみたいな、並べたような形にはなっているかなと思います。

前職で、国連で難民支援の仕事をしていた時期があったので、区長がこの前、難民予算のときに、ドイツの支援をしているよみたいな話があったりしたのを、すごくいいなと思ったりですとか、私、障害者ではないんですけども、膝にセラミックが入っています。なので、交通事故で1回死にかけて、ボルトが2本入って、8時間ぐらいお医者さんが手術頑張ってくれて、今ようやく歩けているような状況なので、入院したときに、障害を持っている方、おばあちゃん方と、高校生の方に事故に遭って、その後10年とか15年とか、半年に1回同窓会を、障害者のおばあちゃんとしていたりとか、やっぱりいろんな人たち、前職で勤めていた会社でも、特例子会社、障害を持った方々が通常の商品をちゃんと利益が取れる形で働いているというところ、障害の方で手が動かないんだったら、じゃ、それを機械であるとかセンサーであるとかで補えば、みんな働けるよねというところを見ていたりとかしていたので、何かもっともっていろんな、属性であるとか、社会的な背景であるとか、環境にあるとか……

【ファシリテーター】

〇〇さん、そういうのがこういう言葉につながってきているということでもよろしいですか。

【参加者】

はい。何か一緒に交わるような、ごちゃ混ぜのところができたら面白いかなというところ

で書きました。

すみません、1分超過しましたね。

【ファシリテーター】

おっしゃりたいことが、すごく熱く伝わってまいります。ありがとうございます。

そうすると、みんなで1つテーマを決めて掘り下げましょう、アイデアをもっと出していきたいという話をしていますが、ごちゃ混ぜがキーワードで上がっていますが、その辺でちょっと何か言葉にして、1つテーマを、アイデアを出しやすいように言葉にしてみたいと思うんですけども、どうでしょう。何かそこで、先ほど〇〇さんが、コピーライターだということで伺い、何かみんなが話しやすくなるテーマみたいのって、どうでしょう。

例えば、僕は今日ちょっと、実は予習をしてきたんですけども、そのときに思っていたのは、多世代交流が進むまちにするためにはみたいな感じでどうかなと思ったんですが、ごちゃ混ぜキーワードがよさそうですね。だから、例えば、よりごちゃ混ぜが進むまちをつくるにはとか、何かそんなところだと、みんなアイデアがどんどん出てくるかなって思うんですけども。

【参加者】

いいですか。

【ファシリテーター】

どうぞ。

【参加者】

私も含め、場のことを書いている方がいらっしゃったので、区とかまちっていうと、すごい大きいような気がするんですけども、行きやすい場とか行きやすいお店ってどんなだろうみたいな観点はどうですかね。

【ファシリテーター】

ごちゃ混ぜと場。

【参加者】

場所。

【ファシリテーター】

場所。そんなあたりで、みんなでアイデアを出せるといいなという中で、〇〇さんがまとめてくれるはずだと、ちょっと期待をしているんですけども、どうでしょうか。

【参加者】

一旦、ごちゃ混ぜる場所をつくるみたいなので。

【ファシリテーター】

ごちゃ混ぜる場所をつくるにはみたいな感じですかね。ちょっと、後でちゃんと書きますけれども、ごちゃ混ぜる場所をつくるには、どんなことができるだろうかで、アイデアを出し合ってみてもいいですか。大丈夫ですか。

この後の進め方なんですけれども、お手元に皆さん、附箋を10枚ぐらいかな、あとマジックをご用意いただきたいと思います。マジックも、何色でも全然大丈夫ですが、同系色は避けたほうがいいかな。誰かピロリンにもあげてください。

いけない、ピロリンの自己紹介忘れておりました。失礼しました。今さらでございますが、ピロリンの自己紹介をお願いします。

【区長】

ピロリンです。なぜピロリンなのかというと、このノブさんファシリによるこのダイアログカフェを始めて、2回目、3回目ぐらいのときに、こういうところに行ったら、僕のところ、当時はこういうストラップの名札じゃなくて、立ててたんですね。そこにピロリンって書いて、僕、「ひろのぶ」なんです。そこで、誰かが勝手に、今日はピロリンだっていうふうにしてくれたんだと思うんですね。

【ファシリテーター】

そのときの写真が、これです。皆さんにお見せします。

【区長】

たくさんの芸者の置屋さんだったところの2階を使ったオープンスペースだったんですけども、だけど、それは、参加者の人のニックネームで、隣の人のニックネームで、でも、それが気に入って、それ以来ピロリンを名乗っております。

今日は楽しい会話ができるように、僕は、最初のうちはあんまりしゃべらずに我慢したいと思います。よろしくをお願いします。

【ファシリテーター】

すみません、最初に自己紹介、ピロリンにしてもらわなきゃいけなかったのに、申し訳ありませんでした。

この先なんですけれども、ごちゃ混ぜる場所をつくるにはというところで、こんなのもあるよ、あんなのもあるよ、もちろん皆さんが先ほど挙げたのを、また挙げていただいてもい

いですし、ほかの方のアイデアを奪っていただいても。1アイデア1枚ぐらい、軽くキーワードを書いていただいて、それで、あとでここに集めていきたいと思います。大丈夫ですか。

取りあえず、3、4枚ぐらい目標な感じで、ちょっと各自書いて、お手元に置いておいてください。

字が分からなかったら、平仮名でもいいですよ。札を出してもらうときに、説明してもらいながら出してもらうので、単語でもいいですよ。文章でなくても大丈夫です。

ご自身のプラシットにあったキーワードとかでもいいですよ。あと、ほかの人のもぜひ、あの人のいいなというのがあったらお書きください。

〇〇さん、2枚、3枚とかいけそうですか。もうちょいいけそう。枚数もう少し増やせますか。

【参加者】

はい、今考えてる。

【ファシリテーター】

ぜひぜひ。

これ、ピロリンのですか。

【区長】

そうです。

【ファシリテーター】

一旦、今書いているカードで一休みしていただいて、出し合いながら、途中思いついたら、また書き足していただいて全然構いません。

ここからは、先ほど申し上げましたけれども、否定とかはなしね。批判、否定なしで、育てて伸ばす、そういうふうに行きたいと思います。よろしく願いいたします。

みんな、何枚ぐらい書きましたか。10、7、7、すごいですね、みんな。ペン進む人たちですね。

ちょっと、一番多かった〇〇さん、何か1枚。

【参加者】

1番はこれかな。ちょっと、組合せかもしれないですね。

【ファシリテーター】

もし組合せがあるのならば、組み合わせてもOKです。

【参加者】

何か場所って言った割に、会わない人もいるから。さっきおっしゃっていた写真の本をつくるみたいな感じで、その場所を写真で撮るだけで参加する人もいてもいいかなと思って、活発な人はその場所でいっぱいおしゃべりしたり、いろんなことをクリエイティブするんだけど、そういうのになじまない人は写真で参加もできるみたいな、そういう場がいいなっていう。

【ファシリテーター】

なるほど。そうすると、場所の活用法として、写真を使ったイベントだったり、先ほど〇〇さんは写真集みたいなのをおっしゃっていましたが、そういうものを活用していく。

じゃ、場所をどうやって使おうか、活用しようかの話が出てきていますけれども、こういうのを何か書いた方いますか。今ので、写真で参加、何かこの場所をどう活用しようか。場所の活用法みたいなのを書かれた方いますか。ちょっとつながりにくい。

〇〇さん、どう、いいですよ。

【参加者】

活用法なんですか、これ。

私、さっき〇〇さんがお店の話、地域のお店の話をされていて、何か地域の、お店っていてもすごいぼやっとしているんですけど、何かつながる方法ないかなとか、ちょっと考えていました。

【ファシリテーター】

今の〇〇さんがおっしゃっているのは、お店とお店があったらつながる。

【参加者】

それ、横のつながりもあるし、買う人、何ていうんですか、区民とお店がつながるみたいな、何ていうんですかね……

【参加者】

お店も地域、人も地域。

【ファシリテーター】

このごちゃ混ぜるといのは、だから、単に1つの場所じゃなくて、いろんな……

【参加者】

つながっていくみたいなイメージかなって思いました。

【ファシリテーター】

〇〇さんがこの……

【参加者】

何かお店に来た人がつながったりとか、お店とお店がつながったりとか、まず混ぜる前に、いろんなつながりができていったらいいなみたいな。

【参加者】

はい。ちょっとすごくぼやっとしてしまって。ありがとうございます、でも、そういうこと。

【ファシリテーター】

でも、そういうところからまた発展していくかもしれないんで、大丈夫ですよ。

何か、〇〇さんの補足、ありがとうございます。つながりをつくっていくような感じかな。ちょっとどうなるか分かんないけれども、これでやってみましょう。

何かこういうことを書いた方いらっしゃいますか。

〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

これ、区の縁側をつくるという。

【ファシリテーター】

区の縁側、どういうイメージですか。

【参加者】

何か昔、現代アートか何かで、公園に屋根だけあるみたいな現代アートがあって、屋根の上に寝そべって、人としゃべれるみたいな仕掛けなんですけれども、家はないんですよ。屋根だけがそこに、遊具としてあるみたいな、何かそういう、縁側って何かそういう、誰でも立ち入れてしゃべれるみたいな場所のだとしたら、何かそういう場所があればいいなと思いました。ごめんなさい、しゃべるのが下手ですみません。

【ファシリテーター】

だから、つながりをつくれる場所として、縁側みたいな、そういう。

【参加者】

文京区オフィシャル縁側みたいな。

【ファシリテーター】

なるほど、ありがとうございます。

皆さん、ここら辺で何か、自分のこれ近いかも、遠からず近からず。

いいですよ、じゃ、〇〇さん。

【参加者】

何か縁側も多分、ふらっと短時間でも座っていいしみたいなところかなと。

【ファシリテーター】

それ、何か場所という意味でいうと、フリースペースみたいなイメージ。

【参加者】

そうですね、縁側もそうですよね、まさに。何か特別なことがあるわけではない。

【ファシリテーター】

特別なものではなく。

じゃ、〇〇さん、空き店舗の活用、どんなイメージで書いていますか。

【参加者】

普通にそういう場所をつくるのに、空いている店舗を使ってつくったらいいんじゃないかな。

【ファシリテーター】

店舗、空き家じゃなく空き店舗なんですか。

【参加者】

空き家でも。

【ファシリテーター】

空き家でもいい、空いているところがあれば。

古いものの活用、これは家のイメージなんですか。

【参加者】

これは空き店舗とかにちょっと近いかな。

【ファシリテーター】

なるほど。要はフリースペースの探し方とかつくり方として、こういう何気ない程度の、まち中あるんじゃないのという、そういうようなニュアンスでしょうかね。

【参加者】

居心地のいい場所。

【ファシリテーター】

〇〇さんが、何か手が動いた。普段行かない場所。

【参加者】

わざわざそういうところに行って何かするというか、普段から行ける場所だと、多分人も

集まらないし、皆さんの方向性もばらばら過ぎちゃってつながりもつくりにくいと思うので、何かちょっと、さっき言った古いところとか、ちょっととがった感じのところだと、来る人数もある程度少人数のグループ化して、つながりとかできやすくなるんじゃないかなと思って。

【ファシリテーター】

逆に、普段行かないからこそ、こういうつながりができる、なるほど。

【参加者】

何か近いです。

こういうところには、こういう人たちが来ないだろうなというところに来る工夫で、その毎回会合して、やっぱりターゲット層別、例えば、主婦層とか子育てしているとか、平日仕事で忙しいとか、ちょっと高齢者とか、ターゲット別に何か状況とかニーズを聞くような座談会みたいなのがあってもいいのかなと。それに基づいて、こういう属性の人たちとこういう属性の人たちが出会ったら面白いんじゃないかなという掛け算を考え、普段来ないだろうなというところに来てもらうとか、普段出会わない人たちが出会う工夫をする。

例えばなんですけれども、梅まつりとか桜まつりだったら人が自然と来るじゃないですか。この前の梅まつりもすごい混んでいましたけれども、ああいう自然と人が集まる場所に、何かちょっと違うものを入れてみるとか。

【ファシリテーター】

その何か違うもので、例えばはありますか。そういうところが、アイデアとして広がるんじゃないですか。梅まつりに何があったら。

【参加者】

梅まつりに、まずあったものは、屋台とかだけだったんですよ。いつもどおりの焼きそばとかそういうので、例えば、何だろうな……

【参加者】

梅まつりとLEDイルミネーションをブレンドしたり。

【参加者】

プロジェクションマッピング的なのか。

【参加者】

梅まつりか何か、紅葉がすごくきれいでしたよね。めっちゃ人来ていたなと思って。チケット買うのに行列でした。

【参加者】

夜はライトアップしていた。

【ファシリテーター】

今の〇〇さんのをもらい。LEDイルミネーション的なものかな、なるほどね。

【参加者】

夜っていいですね。

【ファシリテーター】

じゃ、〇〇さんいきましょうか。〇〇さん、先いいですよ。

【参加者】

梅まつりっぽくないもののアイデアで。

【ファシリテーター】

ティラノサウルスリレー、これは、恐竜ですよ。

【参加者】

5,000円ぐらいの着ぐるみがあって、空気入れて、ティラノサウルスの格好をするんですよ。それで、ラジオ体操の第一をすとか。

【ファシリテーター】

それは、イベントみたいな感じかな。

【参加者】

SNSでバズっていて。

【参加者】

それで、ちっちゃい子どもはコサウルスというのかな、チビサウルスとかは50メートル走で、大人は100メートルで、健脚の人は200メートルとか、自己申告で。もう全然競わないです。やっている人も笑っちゃっているし、見ている人も笑っちゃっているし、勝負じゃなくて、本当に見る人もやる人もみんな笑って、ああ、楽しいねで終わるだけの。

【ファシリテーター】

でも、だからこそ、さっきの普段つながらない人がつながったりとかというのにつながっていくんじゃないかと思います。

というのが、行われていたということなんですね、それ。

【参加者】

今現在も。

【参加者】

調べたら出る。

【ファシリテーター】

各地で、そうなんですか、分かりました。じゃ、レース、なるほど。ありがとうございますました、ちょっと私は初耳でした。

先ほど〇〇さんも何か。

【参加者】

こめんなさい、何か普段行かない場所と言ったので、ちょっと真逆で考えてみた保育園とか高齢者、ちょっとそんな感じの組合せもいいかなと思って、ちょっとだけ。

【ファシリテーター】

今のは、〇〇さんがおっしゃっているのは、幼稚園の子は高齢者施設へ行かないし、高齢者の人も保育園に行かないけれども、ここが交わったらちょっと面白いことが起きるんじゃないかということですね。なるほど。

【参加者】

高齢者もうれしいし、脳の刺激にもなるし。

【ファシリテーター】

出ましたね、いいですね。

【参加者】

この間、我が家の中学生も職場体験で保育園に行って、何か面白かったみたいです。

【参加者】

保育園に職場体験に行って、普段行かないですからね。

【ファシリテーター】

ちょっと職場体験、いいですね

【参加者】

もう紙がないぐらいな感じですね。

【ファシリテーター】

どうですか、これのつながりで何か。

【参加者】

こういう掛け算になったら面白いことですよ。

【ファシリテーター】

そうしたら、少し話がそれでもいいかな、大丈夫かな。

はい、じゃ、職場体験。ちょっとイベントのところに入れさせていただいちゃいます。

少し話変わってもいいんですけれども、これ、私のって何か。

〇〇さん、枚数多いので、〇〇さん、何か1枚。

【参加者】

僕、場所って言いつつ、どうやったら人って来るかなと思って、そこにいるとポジティブな気持ちに。

【ファシリテーター】

ポジティブな気持ちになれる。

【参加者】

例えば、心地よいか、楽しいとか、ほっとするとか、かっこいいとか、そういうのって、来てもらうのがすごいいいなと思いました。

【ファシリテーター】

気持ちの部分ですね、心持ちがどうだったら集まるかという。で、ポジティブな感じ。

〇〇さんが出ました、楽しい。〇〇さんの気持ちもちよっしゃべってみていただいていいですか。どういうのが楽しい。

【参加者】

分かんない。分かんないで書いた。楽しいところに人が集まるなと思って、何か楽しいことやったら。

【ファシリテーター】

〇〇さんにとっての楽しいは何でしょう。

あれ、分からない。ありがとうございます。

【参加者】

おいしいものがあると集まるかな。

【ファシリテーター】

〇〇さん、おいしいもの。おいしいもので釣りましよう的な、釣りましようって何か言わないですね、すみません。

【参加者】

おいしいもので、楽しく、うれしくなる。

【ファシリテーター】

おいしいものは、楽しい気持ちを、ポジティブな気持ちを引き出してくれるということですね。

【参加者】

誰でも来る。

【ファシリテーター】

これ、気持ちを今、引き出してくれるものをある程度出していますけれども。

いいですね、〇〇さん。

【参加者】

おいしいものときれいな景色がある庭園、六義園とか。

【ファシリテーター】

しかも、雑談。

【参加者】

庭園、雑談って書いたんですけれども、庭園って静かにしなきゃみたいな、ちょっと、何か背筋ピンみたいなイメージあるんですけれども、そこでもっとしゃべろうよみたいな会があったら、弾まないかなって。

【ファシリテーター】

なるほどね。

〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

あと、音楽。

【ファシリテーター】

いいですね。

【参加者】

結構どこでも、静かにしろ、静かにしろになっちゃっているから、あえて音楽を流して、それもお行儀いいやつじゃなくて、お祭りのやつとか、何かマツケンサンバみたいなのか、この場にふさわしくないぞみたいな。

【ファシリテーター】

今のマツケンサンバとかでも、ごちゃ混ぜのときに、年代をあまり絞らずに、いろんな世代でも楽しめる音楽みたいなニュアンスで、いいですね。

【参加者】

クレヨンしんちゃんでも。

【参加者】

何かそれ、史跡と組み合わせたい。

【ファシリテーター】

史跡というのは、歴史的なほうの史跡ですね。

【参加者】

例えば、東洋文庫ミュージアムとか、六義園もそうだし、何か文京区って静かにしなきゃいけない名所が多い。そこで、何か音楽とかかけられる日があったら、ちょっと楽しそう。

【参加者】

プロジェクトマップングとかしながら、ラップ歌っている人がいるとか。

【参加者】

今日は、レコードをばっと、これ流しちゃうとか。

【ファシリテーター】

なるほど。

【参加者】

ちょうど小石川図書館にレコードの、都内唯一のあれもありますし、そういうのを流してもらえると。

【ファシリテーター】

そうなんですね。

【参加者】

図書館もいいですね、図書館自体、静かな場所だから。

【ファシリテーター】

でも、そこでたまに音楽流そうよとか、そういうのがあってもいいかもしれませんね。

じゃ、〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

さっき、〇〇さんが楽しかった気持ちみたいなのをおっしゃっていて、ごちゃ混ぜで楽しかった経験って何だろうって考えたんですよ。1個は学び合い、シブヤ大学とか大ナゴヤ大学って、市民のいろんな専門性を持った方に聞いてみようよみたいな、何か物すごい、例えば、名古屋だったらあんトースト、小倉トーストに詳しい人がいて、その人が名所を見せてくれるとか、八丁みその蔵に行ったら、八丁みその思いを持った人が話してくれるとか、あ

とは、ちょっと名古屋市周辺に住んでいたときには、村おこし頑張ろうとしているおばあちゃんたちがクレソンを育てて、クレソンそばを作ったとか、そうめんを作ったらから食べに来るかとか、業者の人がカキをちょっと、取ってきたのをその場でみんなで焼いて食べないかとか、そういう何か詳しい人とか、何かちょっと自分が行かないところに行って、現地の人と、これうまいよねとかといって食べたのは、すごい楽しかったなと思って。

【ファシリテーター】

そういう、だから、決してプロフェッショナルというほどプロフェッショナルではないんで、言葉がなんですけれども。でも、その地域の方だったり、ちょっと普段関わらないような人が……

【参加者】

生の言葉で、自分の言葉で語ってくれる。論理的に言うとか、議論で言うんじゃなくて、これはこれだけすごいんだよとか、これだけ頑張ってきたんだよみたいなのを話してくれるのを聞くのが、すごい面白かったなと思って。

【参加者】

そういう何か気持ちを共有できる場所が楽しいなって。

【参加者】

うん、確かに。

【ファシリテーター】

なるほど、気持ちの共有。ありがとうございます。

【参加者】

学び関連で出てきちゃったんですけども、いいですか。

【ファシリテーター】

いいですよ。じゃ、〇〇さん、お願いします。

【参加者】

子どもや子どもたちに絵本を読んでもらって、大人が聞く。子どもから習うという形。

【ファシリテーター】

子どもに読んでもらう。これは、何かもう既にされているんですか。

【参加者】

私の子どもが小学校1年生のときに、国語の宿題で、毎日毎日同じ文章を読むんですよ。親は、よくできましたって丸をつけるんです。でも、飽きちゃうんですよ。子どもも飽きち

やう、私も飽きちゃう。だから、飽きないように花丸、今日は花丸だねとか、今日はお月様を中に入れたよとか、お星様花丸とか、赤で書いて上げたり、青で書いて上げたりとかやって、そうするうちに子どもも乗ってきて、ダンスしながら本を読むっていうので、暗記しちゃっているから。あと、ジャンプしながらとか、家中走り回りながら行って、私が追いかけて、やっとできた。

【ファシリテーター】

それを、〇〇さんの場合はご家庭でやったけれども、それを、それこそこういう、ほかの方々も集まったごちゃ混ぜの場でやってみる。

【参加者】

子どもが、何でも聞け、静かにしろ、でも習え、話を聞きなさいって。でも、インプットさせられるばかりで、アウトプットがあんまりないなと思って。だから、あなたの絵本を、読み聞かせを聞きたいわっていうふうになると、最初はおじけづいちゃうかもしれないけれども、発表する場が幾つもあるって、何度も何度もトライできる。トライして失敗しても、何度もまたトライできるところが幾つもあるって、いろいろな形があったら、すごく子どもたちの、大人の学びもすごく大きいし、子どもの成長、自己肯定感も達成感とかも。

【ファシリテーター】

先ほど、高齢者と保育園というのがありましたけれども、そういうふうな子どもたちがちょっと上の方々と関わる機会を増やしていくということですね。

【参加者】

それ、子ども先生みたいな学名というか。

【ファシリテーター】

子ども先生というのは、結構メジャーな言葉なんですか。

【参加者】

今、雑談したコメントから。赤ちゃん先生はあるんじゃないかな。

【参加者】

そうなんですか。

【参加者】

何か子育て広場とかの親子が、小学校に出張して、抱っこさせてあげるとかだけなんですけれども、赤ちゃんから学ぶものがあるっていうのがあるんです。

【ファシリテーター】

〇〇さん、子ども先生、ちょっと1枚札をください。

ちょっとどうでしょうか、今、大体半分ぐらいまでできましたけれども、大丈夫ですか。

だんだん、みんなの枚数が、減らずに増えているのが、大丈夫かな。

【参加者】

プランにも書いたんですけども、大豆を育てる。何か大豆って、育てたことある人あんまりなくて、去年から私、大豆を育てるプロジェクトを近所でやっているんですけども、誰もが先生になれるというか、1回育てたら、うちこんなんだったよとかって教えられるので、ひょっとしたら子どもが先に小学校で大豆を育てていれば、それをいろんな地域の大人の人に教えられたりとかするかなって。

【ファシリテーター】

しかも、大豆だったら、それがさらにみそになったり、何とかになったりって可能性も、いろいろあるということですよ。

【参加者】

枝豆でビールのつまみでもいいです。

【ファシリテーター】

そういうのがイベントになっている。みんなが先生コーナー、いいですね。

【参加者】

育てるところだけだと、例えば、アサガオ、ほおずき市とかで、アサガオを育てた人たちが飾るみたいなものが、小学生のやつがあって、僕も見ました。

【参加者】

そうですね。大豆は食べるころまでいたり、みそだともっと…。

【ファシリテーター】

食育にもつながりますね。

いいですよ、〇〇さん。

【参加者】

学びをリレーするみたいな、育てることにつながっていくみたいなほうが面白い、よかったですって。先生リレーとか、学び。

【ファシリテーター】

先生リレーですね。

【参加者】

何か文京区っぽいのか。

【ファシリテーター】

今、ちょっとイベント推しになっていますけれども、どうですか。そういうつながりがあれば。

はい、〇〇さん。

【参加者】

また人なんですけれども、今度は内気な人でも安心。何か今、コミュニケーション能力とか、初対面の人と話すのが苦手だとちょっと躊躇しちゃうイベントも多いなとかって、そうではないのだといいなと思いました。

【ファシリテーター】

ちょっと積極的な中でも加われるような、そういう場いいですね。そのお気持ちで。

ちょっと先に、〇〇さんが札を持っているので。

【区長】

今日は、ほとんどみんな初対面なのに、どんどん。

【ファシリテーター】

そうなんです、すごいです。〇〇さん、いきましょう。

【参加者】

いろんなカラーが、いろんな人がいろんなカラー。

【ファシリテーター】

認め合えるような場、いいですね。

〇〇さん、ごめんなさい。

【参加者】

内気な人も参加できる場として、デジタルとアナログで、例えば、Zoomとかだったら家からでも、ビデオとか映さなくても参加できるよっていうふうにすれば、すごく敷居が低くなるので、いいのかな。

【ファシリテーター】

今、内気な人でもからきているんですね。分かりました。

少人数。

【参加者】

内気な人でも少人数なら話せるとか。30人とか40人とか、それ以上だと話せないっていう

人でも、このぐらいなら話せるとかいうことあるんじゃないかな。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

ごめんなさいね、〇〇さん。

【参加者】

デジタルでちょっとだけAIを活用できたらなっている。

【ファシリテーター】

〇〇さんのAIの活用は、どんなイメージをされていますか。

【参加者】

何かそれこそ、どこかの区というか、ちょっと障害を持っている方で、動けないけれどもカフェをやっている、何でしたっけ。

【ファシリテーター】

中央区のあそこね。角にある、あのカフェですよ。

【参加者】

そう、そうです。

【ファシリテーター】

私もちょっと、東日本橋のところの、ロボットのね。

【参加者】

そうです。ロボットで、会話をできる、そうなんです。そういったのを、はい。

【ファシリテーター】

ペッパー君を遠くから障害を持った方が遠隔操作、遠隔で接客するというカフェをおっしゃっているんですよ。なるほど、ありがとうございます。デジタルの使い方。そこにアナログが加わっているんですよ、あれはね。

【参加者】

そうですね、はい。

【ファシリテーター】

メタ。

【参加者】

メタバースとか。あと不登校の子どもとかが、メタバースの中でクラスルームをつくっていたりとかするんですよ。

【ファシリテーター】

今、ごちゃ混ぜで場所といったときに、私、アナログ人間なので場所と思っちゃったけれども、今ここら辺から、AIからメタバース、ちょっとオンラインとかインターネットを活用してとかといっていますけれども、そんな感じの何か、単なる場所じゃなくてと書かれた方、いらっしゃいますか。そういう感じではなかった。

じゃ、〇〇さんのそれ。

【参加者】

私、聞いていて書いたのは、デジタルとAR、VRが、面白いものと組み合わせると、多分ミュージアムに行ったらカメラ向けたらわーって浮き出てくるのとかあるじゃないですか。ああいうのとかもすごい面白いなと思ったりとか、あと、この前、私転職したんですけども、会社の入社時のオリエンテーションがVRでした。なので、みんな、日本全国とか、下手したらほかのところから参加している中で、オリエンテーションみたい、オリエンテーリング昔やったじゃないですか、小学校の頃とか。あれを、この遊園地の中から情報を集めて、みんなで協力して問題を解きなさいという形でした。みんなVR酔いになって、結構大変だったんですけども。

でも、そうすると、面と向かってだと話しくいけれども、ゲーム感覚でアバターつくってやるというのも楽しいなとかって思ったりしました。

【ファシリテーター】

なるほど。場所が膨らみますね。単なる場所じゃないって、すごいなと思います。

【参加者】

アバターで文豪になれるとか。

【参加者】

なりたい。

【参加者】

でも、そういう人もいるし。

【参加者】

でも、ミュージアムとか行って、自分が座っているような感じになれるとか、あったら面白いかもしれない。東洋文庫のさっきのところとか、中に自分が入れたら面白いですね。

【ファシリテーター】

〇〇さん、ちょっとまだ枚数多いので、1ついただいてもいいですか。

【参加者】

あと、ごちゃ混ぜる係の人みたいな、主みたいなのが必要かなと。

【ファシリテーター】

必要ですよ。ごちゃ混ぜる方法ですよ。だから、その場合は人が必要ですよということですね。

【参加者】

そうですね。

【ファシリテーター】

どうですか、このごちゃ混ぜるところ、こういうごちゃ混ぜ方あるんじゃないのとか、書いた方いますか。人が大切だよとか、こんなことも、〇〇さん。

【参加者】

私は、この誰でもっていうふうに書きました。例えば、今ある、もともとつながりを活用してやると、例えば、礪川おやじの会とか、礪川小学校を卒業した人の関係者なんですけれども、じゃ、私の家族誰も入れないとかというのがあって、地元のコミュニティーだけでも、入れない人が出てきちゃうみたいながあるので、そういうのじゃなくて、参入障壁をできるだけ低くして、そこから新しいつながりができていくというところを大事にしてみたい。

【ファシリテーター】

区民でなくてもということですよ。つい今、区のコミュニティーが、区民だけがってなっちゃいますけれども、いろんな方来られるといいよねということです。

ちょっと待ってください。〇〇さんが今、札を持っているので、その次、〇〇さんいきます。

【参加者】

何か考えておいてなんですけれども、いつか混ざるんじゃないかという。誰でも、いろんな人が何か適当に来ていたり、時間帯によって、例えば、子どもだったら昼間来るし、大人だったら夜のほうが集まりやすいつて、時間帯によって場所の中でも変化があると思うんですけれども、でも、同じ場所にいれば、いつか混ざってくるのかなっていう。

【ファシリテーター】

なるほどね。まず、だから、この空間にいろんな方をちょっと入れるような形。

【参加者】

はい、誰でも。

【ファシリテーター】

なるほどね、それでいろんな人が。

ごめんなさい、〇〇さん、失礼しました。

【参加者】

いろんな人が来ると、やっぱりいろんな問題を抱えている人もいっぱいいると思うので。

【ファシリテーター】

専門。

【参加者】

抱え切れないとか、対応できない人や物事が起きたとき、それが排除につながらないように、その問題についてはこの人に話そうとかというふうに見えるように。分かんないから、あの人を来ないように操作しようみたいな、人が集まると、どうしてもその場の見えないルールみたいなものが出来上がってっちゃうんですけれども、それが、できる限り誰でも受け入れられるように運営していけるように。

【ファシリテーター】

さっき、いろんなカラーがある人とか、内気な人も来られるようにというところにつながる話ですね。その中で、さらに専門につなげられるような機能があると、よりいいなということですね。

【参加者】

多分、抱え切れない問題、そこにいる運営している人たちが、抱え切れない問題も出てくると思うので、それを助けてくれる人がもっと周りにいっぱいいたらいいなと思うので。分かんないから、あなた来ちゃ駄目にならないでいいように。

【ファシリテーター】

場所が、この場所だけで閉じなくて、さらにいろんなところでもつなげられるような、そんな人が運営側に携わってくれるということかな。ありがとうございます。

ちょっと運営方法のところに入っていますけれども、どうですか。何かありますか。

いいですよ、〇〇さん。

【参加者】

あと、ルール。

【ファシリテーター】

ルールね。ルール大切ですよ。

【参加者】

わめく人や暴れる人とか暴力する人とか、人に危害を加える人とか、悪口を言い回す人とか、いろいろその場を崩す人がいると、崩すから排除ってなっちゃまずいと思うので、お酒をいっぱい飲んでくるんだったら、ちょっとここの場所には入れませんよ。でも、そういったときには、そういったお酒の専門の方につなげることもできますとか、全くの拒絶じゃないんだけど、こちらのルールはできる範囲があるわけだから、その範囲以上のことについてはどうしてもできないから、了承してください。暴れる人には警察が来るようにして。

【ファシリテーター】

ルールの中で、いろんな方がつながっていけるということ。今日も、皆さん、私が最初に申し上げたルールをすごく守ってくれて、本当に感謝しております、ありがとうございます。こういう感じで進めて、もうちょっと、あと30分ぐらい進められるといいなと思っております。ありがとうございます。ルール大切。

どうですか。あと、何かこのつながりでもいいですし、ちょっと話変わりそうですか。何かこれが気になっちゃってしょうがないんで、それまでに、うちら楽しみながらやりましょうね。

はい、〇〇さん。

【参加者】

混ぜる人というのがあったんですけれども、何か世話焼きのおばちゃんとかおじちゃんとかいないかなと思って。この人とこの人つながったら面白いじゃないって考えて。

【ファシリテーター】

これ、ちょっとつながりコーナーにしようかな、どうしようかな。世話焼きの人がいてくれると。

【参加者】

何かカンニングしちゃったんですけれども、知っている人って書かれているじゃないですか。全く知らないところに行くって、もしかしたらちょっとハードル高いかもしれないけれども、自分が知っている人とかがちょっとつなげてくれたらとか。あと、面白い掛け算を考えてくれるんじゃないかみたいな。

どうぞ。

【参加者】

これ自身は、私としては、この前、梅まつりのときに、大学の友達に、誘ったら行くんですよ。でも、多分、あの人たちは自分からは行くことはなくて、それは知らないからでというところを書きました。

【ファシリテーター】

ちょっとニュアンスが今、違いましたね。

【参加者】

ちょっと、すみません。カンニングしました。

【ファシリテーター】

でも、オーケーです。そういうのオーケーなんです。

【参加者】

基本的にはそうですよね。

【ファシリテーター】

でも、知っているということは、これは告知とか、そういうほうの話で、ああ、告知方法。告知方法どうしたらいいか、ちょっとアイデアを。

【参加者】

告知しなくてもいいように、駅前につくるとか。

【参加者】

文京区で駅前って、どこをイメージされますか。

【参加者】

もう全部の駅でいいんじゃないかなと。

【参加者】

あまり、駅前って感じがしないかなと。

【ファシリテーター】

駅前。ごめんなさい、動かす人。〇〇さん、どうぞ。説明をしていただいて。

【参加者】

みんな貼りたくてしょうがない。気持ち、めっちゃ分かります。

【ファシリテーター】

いいですよ、説明をしていただいて。

【参加者】

本当に動かす、心を動かす、行きたくなるとか、やりたくなるとか、気持ちを動かして参

加するように。

【ファシリテーター】

なるほど。

【参加者】

仕掛け人みたいなの。

【ファシリテーター】

そういう人が必要なんじゃないかということですね。

ごめんなさい、告知方法は、これ、〇〇さんだけ。

【参加者】

はい。

【ファシリテーター】

駅前って出されましたけれども、何か具体的にこういうふうにするにすればいいのにとか、何かアイデアありますか。

【参加者】

やっぱり、さっき何かどっかちらっと出た、いろんなセクションの人に伝えるっていうのしか、あんまり浮かんでなかったんですけども、子どもとか高齢者とか町会とか区役所の人とか。

【ファシリテーター】

ターゲットごとにとか、そういうことですかね。

【参加者】

1個聞いてもいいですか。何かこうあるべきという話をすると、私たちイメージつかなかったりとか、あるべき論の話になっちゃうと思うんですよ。何かさっき聞いていて、楽しかったときとか、そういうのを聞いていていいなと思ったのは、例えば、自分をごちゃ混ぜの空間に入ったときに、どういう楽しかった経験があるのかみたいなのところから、こういう要素があったら、次に生かしていけるんじゃないみたいなのを探していけたら面白いのかなとか、聞いていてもすごい、皆さんの経験とかもっと聞きたいなというところで、思ったりもしました。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。形式的に、ちょっとこちらのほうを一旦、今日は区切りをつけさせていただきたいと思います。

【参加者】

告知のほうでいいですか。

【ファシリテーター】

告知、はい、どうぞ。

【参加者】

町会の掲示板を町中にいっぱい立てて、雨よけのためのアクリルの引き戸を必ずつけて。単に板だけだと、雨が降ると全部印刷もなくなっちゃうし、印刷物自体が剥がれちゃったりするから、アクリル板で雨よけ、風よけをして。

【参加者】

今、雨とかって言ったんだけど、多分ほかのところでやっていないところで、掲示板をデジタルにやったらいいのかなって。そうしたら、紙代かからないし。

【ファシリテーター】

というか、手間のような気がしますね。紙を貼る手間が省けるのかもしれないですね、もしかすると。

【参加者】

一瞬で配信できるから。

【参加者】

そう。

【ファシリテーター】

ちょっとデジタル掲示板、〇〇さん、書いていただいていいですか。なるほどね。

【参加者】

何かナンバー1でやったらいい。

【参加者】

私、両方欲しいです。

【ファシリテーター】

あと、今日のイベントも、みんな知ったのも、SNSの人もいれば、区報の方もいらっしやって、いろんな手段あるんだなって感じていますけれども。〇〇さん、ありがとうございます。

ほかはどうですか、告知のあたり。

はい、〇〇さん。

【参加者】

それに向かって、デジタルの掲示板もあれば、逆にアナログを極めるみたいな。例えば、活版印刷で全部掲示物があって、めちゃおしゃれみたいな。せっかく印刷のまちだし、そういう何か。

【ファシリテーター】

活版印刷お願いします。なるほどね。

【参加者】

めちゃお金かかりそうですね。

【参加者】

凸版印刷さんの地下で、体験ありますよね。

【参加者】

やっていますよね。

【ファシリテーター】

いいですよ、〇〇さん。

【参加者】

何か、やっぱりさっきも出ていた、かわいいとか、かっこいいとか、変とか、やっぱり飛びつくものというのがあると、告知にも生かせる。

【ファシリテーター】

確かにね。出会いとかもそうですよね、人のね。

時間の限りもあるので、みんなの中でもちょっとセレクトしつつ、挙げていただければと思いますけれども。

〇〇さん、どうぞ。

【参加者】

つながりのやつで、これも。

【ファシリテーター】

これ、ちょっといっぱい書いてあるので、ちょっとどんな感じかを言っていたいただいてもいいですか。

【参加者】

ある自治体では、小学生が下校するとき、まち全体に響き渡る、防災のときの警報を出すスピーカーを使わせてもらって、今から1年生が下校するので、まちの方たちは見守りをお

願いますっていうと、会社の窓とか玄関開けて、子どもたちが帰る様子をまち中の人が見てくれたり、マンションのおうちにいる人が、窓開けてベランダから気をつけてねって言ってあげたりとか。最近、小学生の親とか親戚でもないんだけど、同じまちに住んでいるということで、みんなで安全守ろうというやつで、それすごくいいなって。

【ファシリテーター】

いいですね、今ある設備を使えますもんね。

【参加者】

台東区入っていますよね。

【参加者】

うん、台東区です。

【参加者】

台東区入っています、うちにも聞こえています。でも、がらがらまではやっていないかな。

【参加者】

それって、場所っていうより、時間をみんな一緒にするという感じですかね。

【ファシリテーター】

確かにね、場所よりは。

【参加者】

その放送する時間には、みんなが同じことをやっているみたいな。

【参加者】

下校時間も、その日によって変わるから、下校するときに、先生なり小学校の事務の人なんか、そのスピーカーに多分線がつながっているんだと思うんです、その防災のスピーカーに。で、放送をすると。

【ファシリテーター】

そうすると、まち全体が何かごちゃ混ぜ感が出てくるってことですかね。ありがとうございます。

【参加者】

住宅街多いから、窓コミュニケーションみたいな、ベランダ同士が。顔見えていれば、防災とかにも役立ちそうで。

【参加者】

あと、役割があると参加しやすいですね。

【ファシリテーター】

役割、1枚つくってください。

【参加者】

何かコロナのときに、窓に虹を描くっていうのありましたよね。

【ファシリテーター】

そろそろお時間的に厳しくはなっているんですけども、ちょっと今までにこれない、別の路線でという方ありますか。

【参加者】

じゃ、いいですか。

【ファシリテーター】

はい、〇〇さん。

【参加者】

今ある場をつなげるというのは、面白いですね。

【ファシリテーター】

今ある場をつなげましょうって、せっかくあるならば、それをもっと有効活用すればいいんじゃないのということですね。見守りのところに置いておきますけれども、ありがとうございます。

いいですよ。

【参加者】

内向きな人みたいなの。

【ファシリテーター】

内向きな人、あります、ここに。

【参加者】

本の貸出カードってめっちゃアナログなつながりだと思って。図書館の貸出カード、耳をすませばで出会いがあった、借りた人の名前が書いてあるやつ。あれ、何か区で立ち読み本棚みたいなのをつくって、貸出カードが裏にあって、人の名前が書いてあったら、何かつながりができる。

【参加者】

ニックネームでやる。

【参加者】

ニックネームとかでも。

【ファシリテーター】

図書館、図書室でね。ありがとうございます。

【参加者】

本じゃないんですけれども、知り合いのコーヒー屋さんで、これあったら面白いんじゃないのって企画してやったのが、恩送り。ポイントカードって自分のためにためるじゃないですか。じゃなくて、今日、何か上司に怒られて疲れている人とかっていう、何か自分のあげたい人、例えば、自分の後輩にあげるとか、そういうポイントカードをつくるようにしたんですよ。そうしたら、たまたま例えばちょっとお金なくて来た人も、僕、11月までだと思ってコーヒー飲めたりとか、あと、そのカードの裏にありがとうございますとか、このお陰でちょっと勉強はかどりましたとか、何かコメントが書いてあったりとかして、コミュニケーションが生まれていて、結構何か面白いなって。

【ファシリテーター】

〇〇さん、それを恩送りカードでいいですか。

【参加者】

恩送りは、友達がお店でやっているのであれなんですけれども、でも、そういうつながり、面白いなと思って、本の話とか。

【ファシリテーター】

ちょっと時間が迫ってきたので、ちょっとピロリンに、カードためているんで、ちょっとそれぞれがいろいろなところに来るような気がするんですよ。

【区長】

僕、何も話さなくてもいいのかなっていうぐらい。

【ファシリテーター】

いやいや。ちょっとピロリンにもアイデアをいただければと思います。

【区長】

アイデアというか、ほとんどが情報提供ですね。

下校時間のスピーカーって話ありましたけれども、なかなか、実は新しく住民になった方も多いで、去年、僕、選挙だったんですけれども、いわゆる宣伝カーって使わなかったんですよ。それ、何で使わなくしたかっていうと、まち中に保育園が増えたの、住んでいらっしゃる方は気づかれていると思うんですけれども、午睡の時間とか、子どもたちもいろんな

子たちがいて、宣伝カー回すと苦情すごいですよ。いっそのことやめちゃおうって言って、一切使わなかったんですね。事ほどさように、文京区の場合は、何か一斉に音を出すと結構な反発が、不適切にもほどがあるという。今、だからやっているのは、ながら見守りで、放課後の時間帯に、犬を飼っている人は通学路をその時間にお散歩をしましょうというサークルがあるんですよ、わんわんパトロール活動とか。これ、区内全域であるわけではないですけども、そういう活動を行っている人たちがいます。

【ファシリテーター】

これ、サークル活動でやっている人がいるということなんですか。

【区長】

サークル活動でやっている人たちがいる。ほかのところでも、本来の目的なんだけれども、それをちょっと応用展開するといろんなことができる。本来の目的と違うことをやるといいと。

実は昨年、これちょっとイベントですけども、小石川植物園で、昨年、一昨年ですね、小石川植物祭、祭りなんですね、が行われました。実は、今年は開けないそうです。というのはなぜかという、2日間で1万人以上の人小石川植物園に来たんです。普段って、小石川植物園、有料施設だし、なかなかそんなに人は多くなくて、植物のための場所なんですね。そこで、初年度は、小石川植物園の園長さんが、葉っぱかるたといって、小石川植物園で木から落ちた葉っぱを2枚ずつ置いて、これは何の葉っぱでっていうのを説明しながらかるたにしたのをやっていて、これ、植物とすごく親和性の強いイベントだったのが、去年、どちらかというと芸術祭になっちゃった、アートの人だとかいろんな人。多様性の観点からいうといいんだけども、そこで1万人の人がどーんと来ると、植物園の生態系にとかってことになって、今年のご勘弁をというふうに言われちゃった。ほどよさ感というのは大事で、多分今年も別の場所を使ったり何かしてやるんじゃないかと、こんなイベントがあります。これも、本来の目的と違うことを試している。

ティラノサウルスのことなんですけども、今年、皆さん、今日せっかくですから、着ぐるみラジオ体操を広めませんか。何かやってみたいなと思うのは、どの家でも子どもさんがいる家は、クリスマス用にトナカイのヘアバンドというのかな、こうやって、あるでしょう。ああいうのをつけて、本当に着ぐるみ着なくてもいいんで、そういうのをつけて行って、同じハッシュタグでSNSに流すという、いろんなところで同時発生的にやると、結構面白いことになる。

なぜラジオ体操かという、実は文京区には、ラジオ体操を365日やっている会場が10か所あって、それも、へーでしょう、そんなにあるの。夏休みのときになると、町会が2週間とやってやると、もっと増えるわけですよ、50とか60とかに、もっと多いかな、なるんで、そんなところで行きかけになるし、何か面白いことやっているから行ってみようっていうと、今まで行っていなかった人が行きたくなるようなイベントが必要なのかなという気がしました。

やっぱり、新しく場所をつくるのはとっても難しいんですよ。それなので、今あるものをどう使うかだと思うんですね。やっぱり町会に参加するというのはとっても大事だと思います。僕は1分縛りないですよ。

【ファシリテーター】

ほどほど。1分縛りはないんですけども、終了時刻縛りがあります。

【区長】

町会に、コロナの間に、文京区の飲食店ほぼ壊滅的だったんで、僕、ひたすら個人のSNSで勝手にbグルメといって、区内のお店を発信していたんですね。そうしたら、ちょうどたまたま、今日ここ、千駄木2丁目西町会っていうんですけども、そこが反応してくれて、俺たちもやるっていう、cグルメ、町会のcで、このエリア内の飲食店を発信しているんです。そういうことって、やっていると、なかなか今までのイメージの町会と違うことをやっているじゃないですか。こういうのを広めたいなという気がします。今年ちょっと新しい町会の補助金をつくるんですけども、その話は今日はやめます。

実は、今日出たいろんなお話の、新しくつくらなくてもできそうなところというのは実はあって、文京区では、社会福祉協議会で小地域活動というのをやっています。多機能な居場所、まさにごちゃ混ぜな場所をつくろうと。1つが「かよい〜の」というので、もう一つが「つどい〜の」というのをやっています。「かよい〜の」というのは、介護予防体操だとか、子どもたちの集える場所だとか、趣味の活動だとかっていうのをやるんで、20か所ぐらい文京区にある。「つどい〜の」というのは、正に多機能な居場所、ごちゃ混ぜの場所で、聞いたことありますか、こまじいの家って、これ、本駒込にあるんですけども、朝は未就園のママと子どもが、お昼に近づいてきたら、洗濯物をおわったおじいちゃんとかおばあちゃんとか来て、健康マージャンやったり、おしゃべりしたりと、みんなでお茶飲んだり。夕方になると、子どもたちがランドセルを持ったままそこに来て、学習支援やったり何だり。一日中多世代が交流している場所、実はもう既にあるんです。これ、8か所あります。

こういう場所に思いのある人たちがさらに参加をしていって、この時間帯は私たちがこんなことしますというのをやると、もう既にあるんで、家賃の心配はない、人の心配がないということになってくるので、だから、新たなものをつくるよりは、そういうのを使ったらいのかな。

〇〇さんの大人の児童館っていうキーワードありましたけれども、実は全く同じキーワードで始めた活動が、文京区に既にあります。ところが、そんな楽しい場に、もしかしたらなっていないのかもしれない。文京区には9つの地域活動センターというのがあって、昔、出張所といったんですけれども、そこでふれあいサロンって活動をやっているんですよ。このふれあいサロンのコンセプトが、大人の児童館だったんです。児童館に行くと、子供たちがいろんなことができるように、今はふれあいサロンでやっているのは、そば打ち体験とか、何かいろんなことをやっていますけれども、そういったところを使ってみんながいろんなことをやると、面白いことになるかなという気がしました。

あとは、サードプレイスをやっぱりどうやってつくっていくかということだと思っただけなんですけれども……

【ファシリテーター】

ちょっと、サードプレイス分かんない方もいらっしゃるかもしれない。ちょっと簡単に。

【ファシリテーター】

第三の居場所ですね。自分ちと職場とそれ以外で、例えば、中高生のサードプレイスって、文京区ではb-1 a bというのを活動しています。子どもたちにとっては、家庭と学校で、それだけで煮詰まっちゃう人はとって置いて、不登校になったりということがあるので、b-1 a bというサードプレイスをつくっていて、そういうサードプレイスをみんなで、こういう「かよい～の」とか「つどい～の」といったところを使いながらつくっていくということじゃないのかなというふうに思いました。

実は、東京大学が、本郷キャンパスと地域との協力の活動を始めるという基本構想というのをつくってくれて、その中で、最後には落とされたキーワードなんですけれども、にじみ込みにじみ出しというキーワードで、最初議論していました。

これ、どういうことかということ、文京区内で結構大きな面積を占めているじゃないですか、大学とかというところは。ところが、コロナ前とか今は、東大へ昼間行くと、学生より多く、バギーのママさんたちが安全で遊べる場所で、僕も58年前に文京区で生まれましたけれども、やっぱり東大の中まで自転車持って行って、あそこで乗れるようになって、すごくそういう空

間なんですね。それがにじみ込みなんだと、地域からの東大へのにじみ込みなんだと。

東大は、我々もにじみ出さなきゃなんないというふうに言ってくれています。ところが、かつては東大はにじみ出していて、本郷通りのところなんかは落第横丁、東大生が朝まで飲んだくれていて落第するから、名づいた落第横丁というのがあったり、にじみ出していたのが、今、門と塀に囲まれた空間になってしまったので、そういうのを活動していくというのは、これ、大学との連携とか地域とのつながりとかでもあり得るというふうに思います。

【ファシリテーター】

ちょっと時間が。

【区長】

デジタル、アナログでは、この間、おうち学童。学童保育って、基本的には、両親共働きの人しか入れないんだけど、デジタルとアナログの融合で、おうちの中でもいろんな体験がネットとかでできるようにしたらどうだという提案がありました。これ、ちょっとイベントとして。

最後は、これ、前回は全く同じような話になったんですが、ごちゃ混ぜの居場所は誰がつくるんだという話ですね。今日の話で、すごいいろんなアイデアが出て、すごく楽しかったんですけども、自分がつくるという話はなかなかなかったのは、唯一気になったところです。こういうのがあったらいいなという話だけど、自分でつくろう、自分がつくる側に回ろうと。今日の区長対話に参加するだけで、すごくハードル高かったと思うんですよ。だけど、よく申し込んでいただけたなって、やっぱりこういう場所が楽しく、今日楽しかったと思っていただいた人は、仲間が増える人だと思うので、さっきの着ぐるみラジオ体操じゃないですけども、マイナスイメージで言われるチェーンメール、チェーンメールを楽しいことで活用して、こんなことがあるから、明日2人の人にメールをしてくださいとか、SNSで発信してくださいとかとって広げていくと、仲間が増えるんじゃないかなという気がするんで、自分も何かをするということを、今日のアイデアで発信できたらいいなというふうに思いました。

とても楽しかったです。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

じゃ、一応対話という時間はここまでにさせていただきたいと思いますけれども、いろんなアイデアが出て、これが区のほうに回りますので、また、先ほどピロリンが最後のほうで

おっしゃっていましたがけれども、自分たちでつくるんだというところで、何かまた皆さん、ここで会ったのも何かの縁だと思うので、またつくりながらつながっていけるといいななんということも思っておりますので、また今後もよろしく申し上げます。

今日の対話はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

【広報課長】

では、お配りしているアンケートというのがありますので、記入後、職員へご提出ください。本日はお疲れさまでした。